

指標名：ESPフォーキャスト調査(2009年9月)

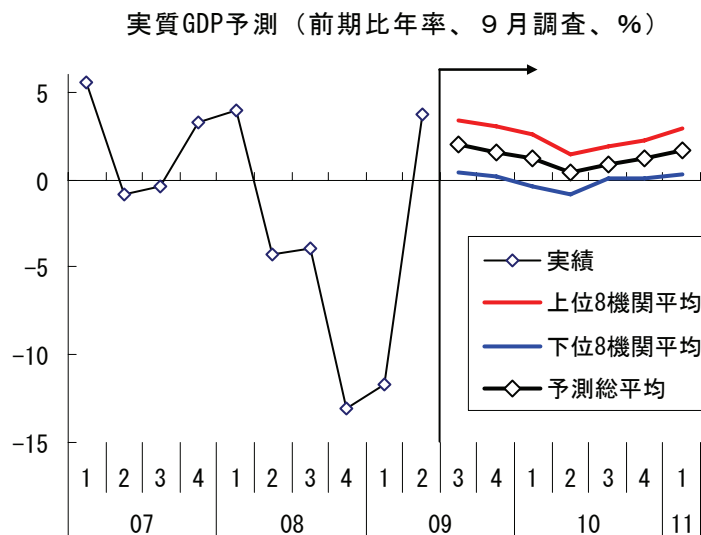
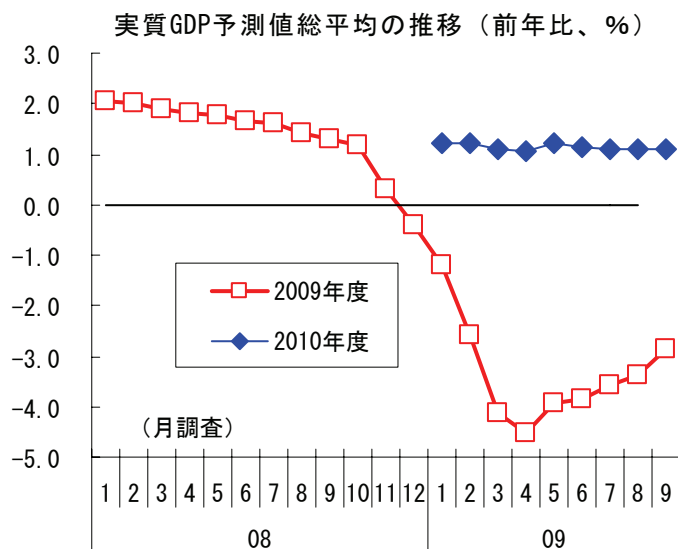
発表日：2009年9月8日(火)

～09年度見通しが5ヵ月連続で上方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528



(出所) 経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ 09年度見通しが5ヵ月連続で上方修正

本日、経済企画協会から9月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、40のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。

実質GDP成長率予測は09年度が前年比▲2.86%（8月：▲3.38%）と、比較的大きな上方修正となった。これは、①8月19日に公表された09年4-6月期の実質GDPが前期比年率+3.7%と、前月時点でのコンセンサスより強めの結果になったこと、②過去の実績値の遡及改訂が行われたことで09年度の成長率のゲタが上方修正されたこと、などが影響している。項目別にみると、外需の上方修正寄与が最も大きいほか、公共投資や設備投資も上方修正されている。一方、雇用調整が急速に進んでいることから、失業率は悪化方向に修正されている。

09年度の成長率見通しはこれで5ヶ月連続上方修正である。依然として大幅なマイナス成長見込みであることは変わっていないが、最も悲観的だった4月調査（▲4.53%）と比べると、5ヶ月間で+1.7%ポイントも上方修正されている。国内外における在庫調整の進展が予想以上に早いスピードで進んだことや、内外で経済対策の効果が顕在化していることなどが、エコノミストの見通し上方修正に繋がっている。

2010年度については前年比+1.08%（7月+1.11%）と僅かに下方修正された。10年度については、10年度の調査が始まった09年1月以降、+1.08%～+1.21%の極めて狭いレンジでコンセンサスが推移しており、09年度見通しが大きく修正されていることとは対照的である。

○ 先行きは慎重な見方が多い

09年4-6月の実績が上振れた一方、09年7-9月以降の見通しについては若干下方修正されている。ま

た、伸び率も徐々に低下していくとされている（7-9月：+1.96%、10-12月：+1.51%、10年1-3月：1.15%、4-6月0.42%）。内外における在庫調整の進捗に伴うリバウンドが一巡していく結果、先行きは成長率が鈍化するとの見方が多いようだ。また、足元の景気を押し上げている経済対策効果の剥落が予想されていることもあり、10年度前半にはゼロ%台にまで減速すると予想されている。

○ 消費者物価見通しは下方修正

消費者物価指数（コア）の予測値は、2009年度が▲1.49%（8月▲1.40%）、2010年度は▲0.72%（同▲0.52%）と両年度とも下方修正されており、物価下落圧力の強さが示されている。08年に生じた原油価格急騰の裏が出ることで09年7-9月期に前年比▲2.21%までマイナス幅が拡大した後、10-12月期以降は石油製品価格のマイナス寄与が縮小することからCPI全体でも下落幅が縮小すると予想されている。もっとも、08年度後半に急激に拡大した需給ギャップの存在を背景とする物価下落圧力が根強く残ることから、2010年度についてもCPIがマイナス圏で推移するとの見方が引き続きコンセンサスである。

なお、民主党のマニフェストでは2010年度からガソリン税の暫定税率を廃止するとしているが、仮にこれが実現すると、CPIコアは▲0.5%ポイント程度押し下げられることになる。どうやらこの要因については、今回の予測値には十分織り込まれていないようだ。CPIの見通しは、今後下方修正されていく可能性が高いと思われる。

